

小・中学校と特別支援学校が連携して取り組む特別支援教育の充実に関する研究 －特別支援学級におけるライフスキルを高める自立活動－

愛知県総合教育センター 令和2年4月発行

【背景と目的】

- 新学習指導要領では、特別支援学級で実施する特別の教育課程について自立活動を取り入れることが明示。
- 児童生徒が自立と社会参加に向けて主体的に自己の力を発揮するには、「ライフスキル*」の育成が重要であり、自立活動を通じて計画的にその力を育てていくことが必要。
- 特別支援学校のセンター的機能を活用し、小・中学校と特別支援学校がいつそう連携していくことで、自立活動の充実を図っていくことが必要。

小・中学校と特別支援学校が連携し、特別支援学級におけるライフスキルの育成に向けた自立活動の指導について研究し、特別支援教育の充実を図る。

* ライフスキル：日常生活に生じるさまざまな問題や要求に対して、よりよく対処するために必要な能力

【方法】

- 特別支援学級における自立活動の指導に関する調査(県内小・中学校 514 学級)
- 自立活動での活用に向けた「ライフスキルトレーニングプラン」の作成
- 小・中学校と特別支援学校が連携した特別支援学級における自立活動の実践

【研究の内容】

1 特別支援学級における自立活動の指導に関する調査

＜自立活動を指導する上での困難さに関する調査結果＞

特別支援学級担当者の 50%以上が「指導・支援方法が分からない」と回答

→ 児童生徒一人一人の課題に対して、適切な指導・支援を行うことに困難さを感じている状況にある。



2 ライフスキルトレーニングプランの作成

34 のプランから構成

※主に「人間関係の形成に関すること」「心理的な安定に関すること」「コミュニケーションに関すること」を自立活動の内容として取り上げている。

※児童生徒が学習した内容について、別の学校生活場面でも実践できるように「般化するためのポイント」を明記。



【プラン集及び一例】

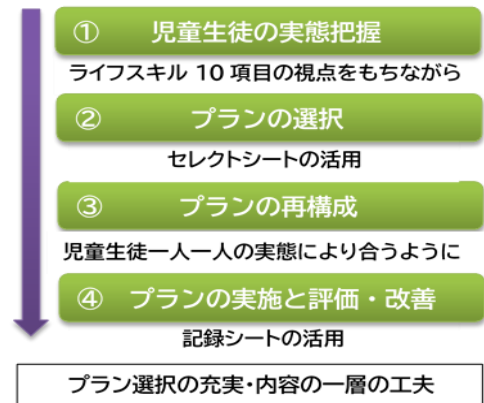
タイトル ①	いいところ見つけ	
目的・ねらい	友達のとよいところに気付き、それを表現することができる。	
自立活動	区分	6 コミュニケーション
	項目	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること
ライフスキル項目	C 創造的思考 E 効果的コミュニケーション F 対人関係スキル H 共感性	
子どもの様子	・友達とのトラブルが目立つ。 ・他の人の気持ちや意図を理解することが難しい。 ・表情、身振りなどの非言語的なサインの理解や表出が難しい。	
時間	10～50分間	
指導形態	小グループ	
内容	① 友達ががんばっていたことを想起する。 ※帰りの会で一日を振り返るなど、テーマを絞った方が想起しやすい。 ② 順番に発表する。 ※発表することが苦手な場合は、メモに書いてもよい。 ③ 聞き手は、発表した子どもとがんばった子どもに拍手する。 ※子どもごとにシートを作成し、メモを貼っていてもよい。 ④ 聞いた中で、心に残った話を発表し、共有する。	
般化するためのポイント	一日の活動を振り返る(帰りの会)など、子どもたちが友達のとよいところに気付いたり、感謝をしったりする機会を設け、それを共有できるようにする。	

「ライフスキルトレーニングプラン」を活用して指導する際は、右の手順のように進める。

①児童生徒の日常の気になる様子(実態把握)から、②「セレクトシート」を用いて関連する複数のトレーニングプランを選択する。③児童生徒一人一人の実態に応じて実践可能なプランを絞り、プランの内容を再構成し、自立活動の時間だけでなく学校生活のさまざまな場面で実施する。④実施に当たっては、「記録シート」を活用し、実施後は記述を参照しながら評価・改善を重ねる。

3 連携した自立活動の実践

【プラン活用の手順】



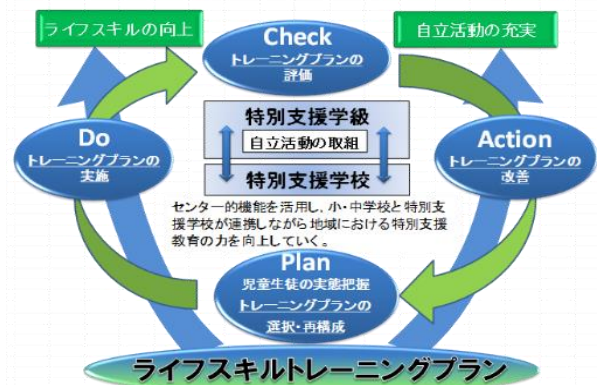
「ライフスキルトレーニングプラン」を活用した自立活動の実践

研究協力校において、小・中学校の特別支援学級と同じ地域の知的障害特別支援学校が連携しながら自立活動の実践を行った。児童生徒一人一人の実態に合わせ、「セレクトシート」を用いて選択したプランの活動内容を再構成し、個別の指導目標を明確にして取り組むことができた。

- 実践事例 1 (小学校) : 他者の気持ちや意図を的確に理解する力を身に付けるための支援
- 実践事例 2 (小学校) : 自分や他者に対する理解を深め、対人関係を円滑にしていくための支援
- 実践事例 3 (中学校) : 自己理解を深め自分の思いを適切に表現するための支援

小・中学校と特別支援学校との連携

児童生徒の実態把握(目標の設定)と実施するプランの選択、実態に応じたプランの再構成に関する内容について、電話やメールで情報交換等を行った。更に特別支援学校担当者が小・中学校を数回訪問し、実際に授業場面を観察することでプランの評価・改善につなげた。



○小・中学校担当者:

自立活動への理解が深まり、プランを再構成しながら自立活動の指導を計画・実践する力が高まった。

○特別支援学校担当者:

自立活動の授業づくりを中心にした連携が効果的であり、センター的機能の役割として認識された。

【研究の成果】

○自立活動での活用に向けた「ライフスキルトレーニングプラン」を作成し、活用方法を示すことができた。

○小・中学校と特別支援学校が連携し、特別支援学級で自立活動の実践を行い、児童生徒一人一人のライフスキルの高まりを実感できた。

○実践事例から、子どもの困難さの背景要因を捉えたプラン選択の重要性や実態に応じてプランを再構成する必要性等の気づきを得た。